



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER. 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Misson with Faith” 「信念あるミッション」

“Through Love. Service” 「愛をもって奉仕しよう」

「原点に立って、未来へステップ」

「ワイズメンとして一歩前進」

「少しでも前へ進もう そしてあがいてみようこの一年」

2015年10月号

NO 470

人は皆、草のようだ。その華やかさはすべて、草の花のようだ。草は枯れ、花は散る。
しかし、主の言葉は永遠に変わることがない。

ペトロの手紙 I 1章 24・25節

40年前のわがクラブ

山田利三郎

「戸数千軒、寺百軒」の行徳 神輿づくりの現場を見る

今月は、「クラブ拡張」の月です。最近創立したクラブや胎動し始めたクラブを見ますと、ポリシーをお持ちの熱心なキーメンバーがいて、YMCAや地域に奉仕することを目指しているように見えます。

来年、私たちのクラブは、創立40周年を迎えます。設立当時のことが思い起こされます。

クラブの創立前、東京YMCAの理解者、協力者の多い杉並地域にYMCA活動を根づかせようと武蔵野ランチ、目黒ランチの拡張運動として、まず「婦人のフィットネス」が妙正寺体育館で始まり、次いで子ども達を中心に毎日曜日に「早朝サイクリング教室」と銘うって妙正寺公園に集まり、近くの公園まで行き、ゲームを楽しみました。これには学生リーダーや父兄リーダーが付き添いました。さらに大人達中心に「杉並ジョギングクラブ」が盛

んに行われました。これらの活動参加者を中心に東京YMCA杉並センターをつくり、メンバーが集まる会館を持つとうということになりました。

そこでワイズ設立の気運が高まり、前々から杉並の地にクラブを作ろうと熱心に話し合っていた吉田明弘、山田利三郎が会員集めに杉並YMCAのプログラムメンバーに入会を勧め、オール東京のYMCA会員名簿から地域在住者に呼びかけ、近隣のワイズメンにも移籍をお願いしました。

ワイズメンズクラブの6つの目的の中の1番目はYMCA活動を支援することです。5番目に健全な交友関係をつくり出すとあります。東京西クラブの現状は5番目に偏る傾向があり、1番目が疎かになりつつあると思います。1番目を尊重してこそ、会員を集めることができるのではないのでしょうか。

“行徳”という地名には、市川市に収まりきれないイメージがあります。江戸時代には、塩の産地のため、幕府直轄地でした。成田山詣での舟運の基地でもありました。由緒ある寺院が多いことにも驚かされます。今回は、神輿製作の現場も訪ねます。

期 日：10月24日（土）

コース：東西線妙典駅ーイオンー常運寺ー徳願寺ー長松禅寺ー自性院ー権現通りー妙覚寺ー法善寺ー豊受神社ー浄閑寺ー旧江戸川堤ー常夜燈公園ーうどん笹屋跡ー中台（神輿）製作所ー妙典駅

集 合：メトロ東西線・妙典駅
改札前 9：45

解 散：同・15：00

参加費：妙典駅 300円（交通費・施設利用料は各自負担。
初回参加料 200円

携行品：昼食、飲み物、雨具

クラブ役員

会 長 大野 貞次
副 会 長 高嶋美知子
書 記 篠原 文恵
会 計 石井 元子
担当主事 小畑 貴裕

9月の記録		ニコニコ	14,910円
在籍者数	17人	メネット	1人
(内功労会員)	1人	クラブファンド	600円
例会出席者数	12人	コメント	0人
メーキャップ	2人	ファン্ড残高	350,519円
出席率	88%	ビジター	1人
前月修正	-	ホテ校ファンド	7,300円
		ホテ校残高	31,548円
		WHO参加者	42人

10月例会のご案内

S 今月の強調テーマ：E(クラブ拡張)・YES

「法の支配」「立憲主義」という言葉が、これほど日本で話題になり、関心を集め、身近になったことはなかったのではないのでしょうか。

今月は、多忙な中、ワイズメンズクラブの活動にも積極的にかかわられている、弁護士・大槻展子さんをお招きして、法律と社会という側面からのお話をいただきます。

ぜひ、ご友人をお誘いください。

日時：10月15日(木)18:45~21:00

会場：「あんさんぶる荻窪」5F第2会議室

(杉並区荻窪5-15-13 TEL/03-3398-3191)

会費：1,500円(ゲスト、ビジター、メネット)

担当：A班(石井、木原、篠原、堀内、山田(紀)吉田)

HAPPY BIRTHDAY

4日 小畑 貴裕 18日 竹内 祐子

20日 木原 邦枝

開会点鐘 大野 会長
ワイズソング
聖書朗読・感謝 吉田 明弘
挨拶と紹介 大野 会長
会食 一同

卓話

「刑事事件から見る社会」

九段坂上法律事務所所長

弁護士 大槻 展子氏

ハッピーバースデー
ワイズ報告 大野会長他
YMCA報告 小畑 主事
スピーチ(ニコニコ) 一同
閉会点鐘 大野 会長

— 9月事務会報告 —

日時：9月24日(木)
19:00~20:00

場所：荻窪・ピアンタ

出席者：石井、大野、神谷、木原、
篠原、高嶋、吉田

<報告事項>

- ① 9月のデータを確認した。
- ② 9月の経常会計を承認した。
- ③ 会員の近況が報告された。
- ④ 東京YMCA 夏まつりにおける長野県栄村の物産販売の収益金6,080円を東京Yに寄付し、後売り分600円をクラブ会計に入れた。
- ⑤ 東京YMCA チャリティーランへの参加・奉仕者は、大野、神谷、高嶋、鳥越であった

<協議事項・例会関係>

▲11月例会

日時：11月19日(木)

会場：あんさんぶる荻窪5階

卓話：未定

担当：C班—神谷、河原崎、高嶋、竹内

▲12月例会

日時：12月17日(木)

会場：中野サンプラザ・15F

内容：会費6000円を決め、内容の企画は担当班に委ねることにした。

担当：山田(利)、小畑、小山、鳥越、本川

<協議事項・例会以外>

- ① ブリテンの「こーちゃんのおウエルネス」は12月まで復刻版を継続することにした。
- ② 諸行事への出席予定者の確認を行った。

(書記代行・吉田明弘)

秋の甲府路へ行こう
あずさ部会予告

あずさ部の年に一度の祭りである部会が、10月18日(日)14:00から、甲府市の内、山梨県防災新館で行われます。

講演は「モノづくりを通しての国際貢献」、講師は、地雷除去機を開発し、普及に努めるとともに、地雷のない平和な大地をつくるための講演を行っている雨宮清氏です。

標克明部長によると、山梨が誇るブランド食材の料理が用意されるそうです。

卓話者紹介

大槻展子(おおつきのぶこ)さん

東京クラブ所属。前東日本区書記、元区ユース事業主任。ブリテン13年12月号「ワイズ・インタビュー」もご覧ください。

<自己紹介>

父は、京都グローバルクラブのメンバーであり、父亡き後、母も同クラブに所属するワイズファミリーにおいて、幼少期からワイズメンズクラブやYMCAに親しんで育つ。大学時、東日本区においてユースクラブY3-Eastの設立にかかわり、2008年、東京クラブに入会。

弁護士としては、企業不祥事と倒産を2本柱とする中規模事務所から、日本の4大事務所への1つに数えられる事務所に移籍した後、独立。現在は、企業法務、刑事事件を中心としながら、個人の相続、離婚、交通事故などの、いわゆる「一般民事事件」にも数多く取り組んでいる。

9月例会報告

9月例会には、あずさ部長・標克明（甲府）さんの公式訪問がありました。あずさ部会への参加の強いお勧めがありました。



写真（上）右から、卓話者の田中博之さん、あずさ部部長、大野貞次会長（下）本職の「損害保険まじめでおもしろ話」を語る田中直前理事



卓話者は直前区理事の田中博之さん（東京）、テーマは「損害保険おもしろ話」。

まずは、生命保険と損害保険の違いについて。生保は必ず加入者に何時かはお金が支払われる。最終的には死亡時に戻ってくる。損保はそうとは限らない。確かに、身近な火災や自動車保険、家や車があれば、加入する人は多いが、私も支払われたことはない。しかしこれは幸せなことと思うべきなのだろう。

車にひかれて死亡した時に支払われた金額が5億円以上になることもあるそうで、リスクのあるところすべて保険になっているという。身体、財産、賠償その他のリスク、最近では自転車保険やゴルフでホールインワンをした人がお祝

いに配るためにかかる費用のための保険などもあるとか。

自然災害の保険はどうなっているのか。今回の鬼怒川の堤防決壊で家や家財道具を流されてしまった場合、心配だったが、住宅火災保険のなかに水害、雪害も適用される風水災保険が入っているそうである。住宅火災保険には噴火、津波を担保する地震保険に追加で入る事が出来るとか。

具体的に世界中で大災害が起こった時に支払われた金額が披露されたのだが、それぞれ何千億の単位であった。飛行機や船舶の事故や、田中さんが世界のトップリーダーの一人だったと伺っている宇宙保険。素人考えでも莫大な金額になる。これらの場合、保険会社1社では不可能なので、多くの会社に再保険という形で関わっているそうです。

会場からは保険で損をした話をされる人が多かったのだが、「保険会社は支払いたいのです」とのお返事。奥深い話のようで、続きを聞きたいです。

（鳥越成代）

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、小山、篠原、高嶋、鳥越、本川、山田（紀）、山田（利）、吉田、＜メネット＞神谷、＜ビジター＞田中博之（卓話者）長谷川あや子（東京八王子）、標克明（あずさ部部長・甲府）、小倉恵一（同会計・同）小原史奈子（同国際交流事業主査・東京たんぼぼ）、小倉香苗・甲府）、＜ゲスト＞恒石浩志、＜メーカー＞小畑（Y業務）、木原（事務会）

第4回40周年準備委員会

9月事務会の後に、河原崎・鳥越・本川さんが加わって40周年準備委員会を開きました。まだ混沌。でも、記念講演の講師が決まれば、姿が見えてくるでしょう。

「絆を紡ぐ40年、これからも

来年、クラブ創立40周年を迎えるに際して、メンバーが名刺を持つということになりました。

自宅で静養中の木原さんがパソコンで制作してくれます。

これは、40周年祝会に、皆さんに参加いただくPRのためだけのものではありません。

私たちのクラブの40年の歴史での一番の誇りは、絆を紡ぎ続けてきたことではないでしょうか。出会い、触れ合い、分かち合うために、気持ちのいい例会を創り上げてきた自負があります。

これを将来も繋げていきたいと思えます。

それでも、近年、やや自分たちだけで固まってしまう傾向が感じられます。これは、クラブの外へ出ていこうというだけのことではありません。クラブ例会に出席下さる卓話者を含むゲスト、ビジターが、いかに入りやすく迎えるかでもあります。

名刺は、人を繋ぐ手段です。世の中で、名刺を出さないのは、主婦と学校の先生、役所の窓口、警察官と言われます。事情はあるにしても、共通しているのは、自分の城に籠り、「見れば誰だか分かるだろう」と、自分よりも目下と思う人に接している場合です。

名刺は、へりくだりの姿勢ともいえます。若手議員が、天皇に名刺を出したと嘆いた元首相がいましたが、これは例外。相手が来るのを待っていたのでは、出会いも触れ合いも生まれません。

名刺のもう1つの効用は、書かれた内容に責任が生まれることです。組織について、その活動についての窓口になることが求められます。また、自分らしく説明できることが必要です。

名刺を最大限に利用して、50周年に向い、今を大切に、絆を紡ぎましょう。（吉田明弘）

CHARITY ランに参加して

9月23日 シルバーウイーク
最終日 秋晴れの下、都立木場公園にて第29回東京YMCA国際チャリティーランが開催された。

説明を受け、コース作りを行う。その後、応援とランナー以外がコースに入らないように気をつける。一般の来園者も多く、事故でも起こると開催が困難になるという説明に、心して待機した。

午前中はこどもラン。スタート直後から全速力で走ってくる子どもたち、頑張れ〜と旗を振る。赤いユニホームを着たサッカーチーム、さすがに皆早い。ゴールにあと200mの地点でも余裕の笑顔だったり、疲れて泣きながらママやパパに手を引かれて走ったり、子どもたちのかわいいこと。

その後、昼食。カレー、お好み焼き、フランクフルト等のテントの前は人だかりができています。1番人気はかき氷。何しろ暑い。

午後、いよいよ競技開始。1チーム6人のリレー競技、スタートランナーは女性、その後はどちらでもよいようだが、男性が多い中で、全員女性のチームの健闘が光った。コスチュームが美しく、特別賞を受賞していた。伴走者と共にハンディキャップのある青年達もかなり参加している。中には伴走者をおいてきてしまうぐらい速く走る青年もいて、伴走者に応援の声があがった。

無事に終了し、走者たちの顔がまぶしい。皆本当に晴れ晴れとした顔をしている。最後は表彰式とラッフル大会。表彰式でパパやママと一緒に壇上に上がった子ども達の誇らしげな顔が印象的。

老若男女が一緒になって、本当に楽しそうに走るこのような大会は珍しく、素晴らしい。きっとすべての走者がこの夜は心地よい眠りについたことでしょう。当クラブから大野、神谷、高嶋、鳥越が参加しました。(鳥越成代)

火消し、ピアノ、スポーツ WHO9月例会

9月も暑いかも知れないと、見どころは館内を多くして、解散を早めに設定しました。丸ノ内線の四谷三丁目駅に集合し、駅に隣接している消防博物館へ。10階の会議室兼展望室に直行して、1階ずつ降りながら展示を観ます。江戸の火消し、明治のに馬力の放水車、現代の防災、災害救助体制と、地下から2階までが吹き抜けで、ハシゴ車や消防ヘリコプターが展示されていました。大人も楽しめます。

「四谷怪談」で知られる於岩稲荷神社に立ち寄りしました。実在のお岩さんは良妻で、それにあやかろうと近所の人が稲荷を祀ったというのに、鶴屋南北によって、怪談に仕立てられてしまったそうです。

民音音楽博物館は、素晴らしい見どころ、聴きどころでした。古典ピアノ室という何の飾り気のない部屋に古典的なピアノがずらりと置かれていました。チェンバロに始まり、ベートーベン、モーツァルトの時代、ショパンの時代と、ピアノの歴史が、解説と生演奏で聴くことができました。

昼食は信濃町駅前の食事処で分かれてとりました。食後は絵画館、神宮球場、解体中の日本青年館、高い塀で囲まれた新国立競技場建設予定地を巡りました。参加者は、42人でした。

今回のワイズ参加者は、吉田(東京西)、中澤(東京たんぼぼ)、野尻(東京武蔵野多摩)、樋口(東京グリーン)と少なく、早退もあり、関喜一郎さん(前所沢)にリーダーをお願いしました。

(吉田明弘)

初参加の富士山例会

毎年、9月第4土曜日に行われる富士五湖、東京サンライズクラブ主催の「富士山例会」は、WHOウォーキングとぶつかつて、これ

まで12回、参加できませんでした。今回、26日のWHOを早退して、車で富士五合目、佐藤小屋に向かいました。標高2230m。

例会は、終わるところでした。卓話は、64歳から12年間で、1300回の富士登頂をしたという、秦野市在住の73歳の元中学校の先生でした。「何を始めるにも、もう遅いということはない」そうです。

5時から、小屋の前庭のBBQ&懇親会。乾杯の後に、今日採ったマツタケ入りのおにぎりが。熔岩の上で焼いた肉も野菜も美味しい。参加者は60人くらい。あずさ部のメンバー、メネットが多いのですが、京都、沼津からのビジター、ゲストもおられました。なんとも開放的な会。通過する登山者たちも立ち寄って、鋭気を養っていきます。みんな、にこにこ。冷気と静寂、闇の大自然の懐に抱かれて、ここだけは、燃える薪を見つめる人のぬくもりがありました。

夜は長いのですが、ここで省略。翌朝4時45分、ご来光ウォークに出発。10数人と六合目を目指す。その後、とんでもない迷惑をかけてしまいましたが、まだ総括出来ず、これも省略。

7時半の朝食の後。“楽しみ自然散策”“温泉&昼食”で、解散しました。

当クラブから参加した大野貞次さんは、早朝に帰京。私は午後一番のバス、本川さんはフルコースの参加でした。

このような会を当たり前のように、自然体で出来るのが凄い。表に出ない働きは大変なものなのでしょう。なるべく山に入る車を減らすために、各地からさまざまな時間に来る参加者を、富士吉田で分乗させる手配。帰りも同様です。プログラムのひとつひとつに、気遣いが感じられました。リピーターが多いのも、気持ちの良い会だからでしょう。(吉田明弘)

☆☆ インタビュー ☆☆ 宮内友弥さんに聴く



宮内友弥さん（東京武蔵野多摩）は、あずさ部長、アジア地域会計を務められ、今年、区の文献・組織検討委員会委員長です。一宮内さんは、どんな子どもでした。

「それこそ毎日野球をしてました。小学校ではエースで野球の選手になりたかったのですが、体が小さくてとても無理だと諦めました。5歳のころから筋金入りの虎キチです」

一商社マンになられたのですね。

「はい、入社後は機械プラント輸出部に配属となり、製鉄所、セメント工場などの工場一式を扱うプラント輸出に携わり、以後ずっと海外畑でした」

一海外駐在はどちらへ。

「お客様は発展途上国の政府や国営企業が多く、最初の10年はインドネシアを中心に東南アジアにどっぷり浸かっていました。その後、サンパウロに8年、中東のバーレーンに4年半いました」

一印象に残る任地はどこですか。

「どこも住めば都でした。インドネシアの田舎では電気もない貧しい生活の中で底抜けに明るい笑顔の親子を見て、何でも手に入る日本と比べてどちらが幸せかと考えさせられました。サンパウロでは、多くのブラジル人と付き合い、私自身の人生観が大きく変わりました。バーレーンで湾岸戦争の開戦前夜に駐在員全員が我が家に集合し、テレビで開戦が避けられないことを確認し、真夜

中に空路、イラクのミサイルの射程距離外のオマーンに脱出するという経験もしました」

一砂漠でゴルフをやられたとか。

「砂漠と言うより土漠のゴルフ場。フェアウェイとラフの境は、コールタールでラインが引いてあり、フェアウェイであれば持参の30cm四方の人工芝に置いて打ち、ラフからはそのまま打たねばなりません。またグリーンは砂にオイルを混ぜたブラウン。これが絶妙で、打った感触は芝のグリーンと変わらないのです。パッティングをするとラインがくっきりと残るので、各ホールにブラウンキーパーがいてパッティングするたびに箒で掃いて消します」

一商社の後、福祉の仕事に。

「海外から日本を見ることにより、プライベートの生活を犠牲にしてまで仕事を優先する日本のサラリーマン社会が異常だと気付かされました。そういうことにも影響を受け、定年を待たずに退職し、老人福祉を勉強しようと入学したのが東京YMCA社会福祉専門学校です。卒業後65歳まで老人福祉の仕事をしました」

一専門学校でワイズとの接点が。

「ええ。現在、アジア・太平洋YMCA同盟の総主事の山田公平さんが当時校長で、『面白い会合とお話があるから』と誘われたのがきっかけです。その時、山田さんからはワイズのワの字も説明が無かったですね」

一ワイズの印象はどうでした。

「最初は反発しました。と言うのも入会后すぐに区大会に出ました。その時にこんな立派なホテルでお金を使うのならもっと他に使う所があるだろうと。が、ある時某氏の『ワイズは、ボランティア団体であると同時に社交クラブでもあるのだよ』の一言で納得させられ今に至っています」

一キリスト教セレモニーには。

「女房がクリスチャンで時々教会にも引っ張っていかれるせい

か、特に抵抗はありません」

一東京武蔵野クラブと東京多摩クラブが合併模索の時期でした。

「入会は、2003年ですが、その後3年間はあまり例会にも出席しない不良会員でした。それが、丁度吉田さんが来られた例会後の2次会の席で伊佐節子会長に口説き落とされて会長にさせられたのが2006年。その時に両クラブが合併しました。なんと、私が合併クラブ、東京武蔵野多摩クラブの初代会長なのです」

一クラブはモンゴル・ウランバートルクラブをスポンサーしたり、IBCになったり、意欲的ですな。

「何か新しいことをやってクラブの活力を引っ張り出そう、盛り上げたいとの思いから、IBCの香港TSTクラブからモンゴルの話があった時には即座に飛びつきました。2014年にチャーターしました。これを契機に国内外で輪を広げていきたいですね」

一会長になった後は、サラリーマン的に言えば、トントン拍子。

「ワイズの世界では本音で語り合える素晴らしい集まりです。そのワイズライフをエンジョイさせてもらってるのですから、頼まれた役割は、自分の出来る範囲、エンジョイできる範囲でお手伝いしなければと思ってやってきました」

一文献・組織検討委員会の長としての課題は。

「なんとと言っても、会員数減少を食い止め、拡大を図らねばならないと思っています。これは委員長と言うより東日本区の1メンバーとして危機感があります。できるだけ多くの皆さんがこの危機感を共有して会員増の意識を持ってもらわねばなりません。そのために何をなすべきか叡智をしばって、委員会として提言出来ればと思っています」

一ありがとうございました。

(吉田明弘)

「笑うと横隔膜を使うので運動になり、血流もよくなります。面白い面白くないに関係なく、まず体操をして、体で笑うことで、リラックスできる」と日本笑いヨガ協会の高田佳子氏が言っています。

1 時間半の体験会終了後、参加者からは「自分を解放出来た気がする」「久しぶりで大笑いしてストレスが発散できた」などの感想が相次いだ。笑いヨガは、笑いの体操にヨガの呼吸法を組み合わせた健康法で、1995年にインドで始まり、今では約70か国に普及している。国内での笑いヨガを普及推進する団体は多数ある。「笑いは副作用のない薬」と言われ、医学的根拠を研究している医師の大平哲也准教授によると、笑いには運動効果とストレス解消効果がある。声を出して15分間笑うと、約40キロカロリー消費するそうで、人間は過度のストレスがかかると、副腎皮質から分泌されるホルモンの一つでストレスホルモンと呼ばれる「コルチゾール」が血液中に増え、糖尿病や高血圧、メタボリックシンドロームなどの一因となる。ところが、「笑う」と、このストレスホルモンが減ることがいくつかの研究で明らかになって

休まず、楽しく、頑張らず！

こおちゃんの *Wellness*

笑いの効能と笑み筋体操

2012年10月掲載堀内浩二

いる。また笑いによる免疫細胞が活性化して、免疫力また笑いによる免疫細胞が活性化して、免疫力が高まるほか、血圧や血糖値を抑える効果があると言われていています。日常生活の中で笑いを増やすことは、健康増進にも役立ちます。私たちはどんな時に笑っているのだろうか。

「友人や家族と一緒に笑いが出る」また「野菜をよく食べる人や体を動かす人は笑いが多い」など、笑いの効用を生かそうと、笑み筋（えみ金体操ハッピーネットの林啓子博士は、教授時代に研究して、漫才を聞くと糖尿病患者の食後血糖値の上昇が抑制されることを確かめた。笑う時に働く筋肉「表情筋」を刺激でストレッチするもので。脳内の笑いの回路を刺激し、自然に笑う時と同じような効果が得られる可能性があるようです。

笑み筋体操 A：①両手をこすり温め、②手を顔にあて、ほほの肉を丸くつかむ、③両手を外回し、内回しする。B：①両手をこすり温め、②手を顔にあて顔の肉を捏ねる。③手を顔から放し開放する。C：①両手をこすり温め、両手を顔にあて左右に引っ張る。顔の輪郭に沿ってなで上げる。

真夏の京都散策桜

大野 貞次

8月の京都アジア地域大会のエスカーションの時間に自由行動して同志社大学に行った。強い陽光が照り付け、39.2度。実際は40度越えていると思われた、汗が噴き出す、なぜ同志社に？

実は私の信仰のルーツ、母方の曾祖父がNHKで放送された『八重の桜』でおなじみになった、当時珍しい学校、同志社に興味を持った。京都中学の学生だったが、友達と訪れ、教師デービス宅に出入りするようになり、そこで催されていた聖書講話会にも出席するようになった。明治9年12月10日、日本基督教会第3公会が設立された日に新島襄先生から洗礼を受けた。曾祖父の名は堀金太郎、後に改名し堀貞一、

を継いで貞次と名付けられた。

翌年1月に同志社本科2年に編入し、明治13年6月本科を卒業（卒業生4人）した。その後、神学部に入學、そこで生涯忘れるこ



の杖」事件を目の当たりにした。

その時、杖の自らの手を打った杖の破片を拾い、生涯、牧会活動のおり活用していたとのこと。

杖の破片はその後、同志社に返納され、現在は折れた杖と共に歴史資料館に保存されている。

今回、その杖と、父が卒業した神学部を見たく訪れ、当時の同志社教会の建物等々を見て回り、やっと念願がかなった一日だった。

編集後記

巻頭言で、山田利三郎さんは、ご自分が提唱者なので書かれていませんが、クラブのYMCAのホテル学校応援は、山田さんの提案です。

当時のクラブ三役が、小畑貴裕主事と相談して、うまく方向性をみつけ、推進、定着させました。

今では、クラブとYMCAとの風穴にもなっています。

今月号にはYMCAチャリティーランの参加記事もあります。

私たちが応援しているのはYMCAの“運動”です。建物とか、組織にこだわらずに個人的にもクラブとしても、参加、活動して、楽しみ、一層の充実感が味わいたいと思っています。(AY)